

すくなくこな
少彦名神社(神農さん)

2017年11月22日(水)・23日(木・祝)

キャラ達と
写真撮影も!

くすりの町・道修町
家内安全
無病息災

神農祭

くすりの キャラクター 大集合



道修町ミュージアムストリート
少彦名神社から徒歩5分圏内
に医薬品に関する展示施設が
5施設(●印)あります。

塩野義製薬本社
展示コーナー

カイゲン
ファーマ

11/22 夕方
道修町通を
パレード!

少彦名神社
くすりの
道修町資料館

↑北浜駅

11/22
キャラ達が
続々登場!



道修町通

←御堂筋・
淀屋橋駅



11/23
キャラ達が
勢ぞろい!

田辺三菱
製薬史料館

大日本住友製薬
展示Gallery

杏雨書屋

他にも
道修町通の
あちこちに
ランダムに
登場!

少彦名神社・大阪家庭薬協会・治験のインクロム

[くすりのキャラクター大集合へのお問い合わせ] インクロム株式会社 広報部 TEL:06-6192-0002

※天候・混雑状況などにより、予定を変更する場合がございます。



神農祭 少彦名神社

張子の虎(五葉笠)の由来

神農祭と言えば「張子の虎」。張子の虎がつるされた五葉笠は、神農祭を象徴するお守りです。なぜ、虎なのかご存知ですか？

江戸時代末期の1822年、コレラが日本へ入り、大阪でも多くの死者を出しました。コレラは、病にかかると2～3日でコロリと死ぬから「三日コロリ」、あるいは虎と狼が一緒に襲ってきたような病の意味で「虎狼痢」とも言われました。

コレラの特効薬の無かった時代、道修町に集う薬種商が虎の頭骨などの和漢薬を配合して作ったのが「虎頭殺鬼雄黃圓」です。病名と薬名に「虎」の字が当てられていたことから、張子の虎がお守りとして、薬とともに人々に配されました。

明治時代に入り、薬の配布は廃止されましたが、張子の虎は家内安全無病息災のお守りとして、また神農祭のシンボルとして、今も受け継がれているのです。



少彦名神社(神農さん)のはじまり

少彦名神社は、通称「神農さん」として親しまれています。「少彦名命」は古事記や日本書紀にも記される日本医薬の祖神、「神農炎帝」は中国の中国医薬の祖神です。

道修町は、豊臣秀吉の商業政策により薬種商が集められた薬問屋の町でした。江戸時代になり、中国やオランダから日本(長崎)に入った唐薬種や和薬種は、すべて道修町の株仲間「道修町薬種中買仲間」が、吟味(適性検査)して全国へ売る特権を与えられました。

当時、人命に関わる薬の検査は困難なことでしたから、中国医薬の祖神の神農炎帝が仲間会所で祀られ、やがて和薬種の取扱いが増えると、日本医薬の祖神の「少彦名命」を京都の五条天神より招き、ともに祀られたのです。この仲間会所のあった場所が現在の少彦名神社で、少彦名神社のはじまりです。



↑お熱が出たら
熱さまシート♪

神農祭//くすりのキャラクター大集合//

